
第 277 号

2017年3月14日

日本気象学会

関西支部 ニュース

- 2016年度の例会報告
- 第10回気象サイエンスカフェ in 関西報告
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い
- **【重要なお知らせ】**
規約類改正案に対する意思表示票提出のお願い

〒540-0008

大阪市中央区大手前4丁目1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区气象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-6143

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://kansai.metsoc.jp/>

E-mail：

kansai-info@metsoc.jp

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際は半角で入力してください。)

○ 2016年度の例会報告

〈第1回〉中国地区

第1回例会は、2016年11月19日(土)に岡山大学理学部において開催されました。本例会への出席者は35名で、4件の一般講演に加えて特別講演が行われました。研究会発表、特別講演ともに岩田徹(岡山大)を座長に進められました。

一般講演では、岡山県高梁盆地の高温化現象(小川晃生;岡山理科大)について一般公開の気象データを用いて盆地の地理的、地形的特徴が盆地の高温化に及ぼす影響について講演されました。次に、岡山大キャンパスの簡易気象観測実験(野沢徹;岡山大)について、学生実験の一環として実施した気温、風向の多面的測定データから、大学構内の温度場の特徴について講演されました。続いて、WRFモデルによる広島豪雨の地形感度計算(松田直樹;広島工業大)について、九州および中国地方の山岳地形を考慮しない場合の模擬実験の結果について比較考察した結果をまとめられました。最後に、春季シベリアの積雪変化が大気循環場に与える影響(藤原昂;岡山大)について、新たに



中国地区例会の発表風景

改良・整備された衛星観測によるデータセットを用いて近年 35 年間の積雪減少傾向と対流圏上層大気との相関性について発表されました。

特別講演は「グリーンランド氷床表面の暗色化に関する科研費の概要」という演題で岡山大学理学部地球科学科の青木輝夫教授よりお話しいただきました。長期間にわたる雪氷観測実験についての計画、実際の現地での機材運搬や設置の困難性、不測のトラブル対応、現地の文化的な様子などを豊富な資料からお話しいただきました。また、氷床の成長や衰退、融解のメカニズム、今後の温暖化で予想される融解のシナリオ、新たに考慮しなければならない要因等について、初学者にもわかりやすく講演いただきました。

最後に、発表会場の手配と運営を担ってくださった岡山大学理学部・野沢徹教授および会場設営や当日の進行をお手伝いいただいた岡山大学理学部の学生諸氏に対して、心より御礼を申し上げます。

(中国地区理事：岩田 徹)

〈第2回〉 四国地区

第2回例会が2016年12月9日(金)と翌10日(土)の2日間にわたり、高知大学朝倉キャンパス共通教育3号棟325教室にて開催されました。例年のように、大阪管区気象台四国地区気象研究会との共催として9日13時半から10日12時まで、とても充実したプログラムとなりました。気象台関係者、大学関係者など、38名の参加がありました。

高松地方気象台長の山田眞吾四国地区理事による開会挨拶により始まりました。例会は5つのセッションで構成され、大阪管区気象台気象研究会からの5件と気象学会からの7件を区別することなく関連する課題毎にまとめて計12件の研究発表がなされるとともに、特別講演が行われました。

第1セッション(座長は見定氏(高知地方気象台))は徳島地方気象台、高松地方気象台と高知工科大学から過去台風や大雨事例の解析や過去データを用いた大雨頻度の統計解析について3件の報告がありました。第2セッション(座長は佐々)は高知工科大

学と高知地方気象台から、地上観測データ日周期の季節変動と2015年12月の高知にお



四国地区例会の発表風景

ける大雨について2件の報告がありました。

第3セッションの特別講演では、琉球大学准教授山田広幸氏より「2016年台風第5～7、9～11号の発生に関わるモンスーン渦の特徴と成因」と題して、2016年に特異な経路をたどった台風について、それらがモンスーン渦そのものや、それに伴って発生したものであることについて詳しい解説をしていただきました。山田広幸氏持ち前のキャラクターにより会場全体が活気付くと共に、まだあまり周知されていないモンスーン渦と台風の関連を把握する良い機会になったと思います。

例会1日目終了後の懇親会では、高知大学内の生協食堂において、気象台、大学関係者と例会の研究発表等を話題に楽しいひとときを過ごすことができました。

第4セッション（座長は村田氏（高知大学））は高松地方気象台と高知大学から2015年の香川県における大雨事例と、四国および太平洋側の降雪特性について3件の報告がありました。最後の第5セッション（座長は北村氏（高松地方気象台））は高知地方気象台と、日本気象予報士会、高知大学から、愛媛県の大雨事例とGPS可降水量による大雨予測、10月5日に発生した高知竜巻に関連する発表2件の計4件の報告がありました。

例会と大阪管区気象台四国地区気象研究会との共催は4年目となり、立場の違いを超えて融合した形が定着してまいりました。最後に、特別講演をお引き受け頂いた山田広幸准教授と例会の運営に御支援、ご協力を頂いた高松地方気象台、高知地方気象台や高知大学の皆様に心よりお礼申し上げます。

（四国地区理事：佐々 浩司）

〈第3回〉近畿地区

第3回例会は、昨年度に引き続き、気象学会例会、大阪管区気象台近畿地区気象研究会との合同で、2016年12月21日（水）に大阪管区気象台大会議室で開催されました。

午前中は大阪管区気象台近畿地区気象研究会（第二日目）が行われ、高頻度衛星雲観測を活用した予報技術や気象レーダーを用いた実況監視手法の検討等、気象業務と結びつきの強い発表がありました。

午後は、近畿地区例会の活性化の試みとして企画した、気象台職員と支部会員双方が聴講できる講演会を行ないました。今年度は、気象研究所予報研究部の津口裕茂氏に講師をお願いし、“「平成27年9月関東・東北豪雨」の発生要因について－総観スケールからメソスケールの階層構造を意識した解析－”と題して、約1時間講演をいただきました。講演会には30名以上が参加し、若い気象台職員からも質問が飛び出すなど、活気ある講演会になりました。

講演会後に休憩をはさみ、土井恵治日本気象学会関西支部長の例会開催挨拶の後、関西支部第3回例会が開催されました。今年度は応募が5題に留まる少し寂しい例会となりましたが、様々な分野の研究発表が集まり、発表時間15分、質疑5分の余裕ある発表時間を確保できました。

セッション1では、石岡座長のもと、年気温と年較差のクラスター分析による北海道地方の地域区分－北海道の地形・海流に基づく5地域区分との比較－、沿岸域海上風況実測データを用いたWRF計算風速のバイアス特性の検討、線状降水帯の形成におけるサブハイの影響について、の3題が報告されました。

セッション2では、向川座長のもと、冬型の気圧配置の特徴からみる北陸の降雪環境の長期変動(多降雪日の出現環境に注目して)、秋が深まる頃の台風に伴う日本付近での広域降水に関する事例解析(盛夏期や秋雨期との比較)、の2題が報告されました。

来年度も例会と併せて講演会を企画する等、活気ある例会開催に努めますので、多くの方のご参加を是非よろしくお願いいたします。最後に、会場の手配や準備及び例会の運営にご協力いただいた、大阪管区気象台職員、日本気象学会関西支部の関係者の皆様方、座長をお引き受けいただいた先生方、その他例会の運営に御支援、ご協力をいただいた皆様に心よりお礼申し上げます。



講演会の風景

近畿地区例会の発表風景

(常任理事：春海 孝)

○ 第10回気象サイエンスカフェin関西報告

サイエンスカフェは、業界外・学術界外の一般市民が気軽に覗ける窓口として、話題提供者とテーマを用意し皆で語り合う目的で開催するお茶会です。

2017年1月28日(土)、大阪心斎橋の英國屋にて第10回気象サイエンスカフェ in 関西を開催しました(日本気象学会関西支部と日本気象予報士会関西支部の共催)。今年度は、大阪管区気象台気象防災部の高橋 宙地球環境・海洋課長を講師としてお招きし、「天候と健康 ～健康管理に使える気象のお話～」と題して、1時間30分の予定で話題を提供していただきました。

「気象庁は医療機関と似ている？」という話題を皮切りに、「疫学と気象学」、「季節ごとの健康リスク」、「健康に役立つ気象庁が発表する情報」等々、身近にある病気や健康の話題と天候・気候との関連性について、軽快な口調で分かりやすく解説いただきました。気象台が発表する情報の解説に留まらず、例えば医療機関から得た情報、保険会社の声、薬局での商品の販売状況等々、興味深い話題がふんだんに散りばめられ、非常に盛りだくさんの内容となりました。

「死亡の季節変動」のような、少しどきっとするような話題も含まれていましたが、メモを取りつつ緩急織り交ぜた内容に耳を傾けられている参加者が多かったのが、今年のサイエンスカフェの特徴となりました。また、話の途中途中で質問を受ける進行スタイルとしましたが、実際に医療機関にお勤めの医師の方も参加されており、参加者皆さまから質問と回答をいただける、活発な会になったと考えています。

話が盛り上がり、高橋様に用意いただいた資料の全部をお話いただけない中でのお開きとなりました。お話の続きをうかがう「天候と健康 ～健康管理に使える気象のお話 その2～」を計画したいと思えるほど、参加者の皆さまには十分御満足いただいて終了することができたと自負しています。このような盛況な会を引き続き企画していきたいと思っておりますので、テーマの要望等ございましたら事務局まで是非お知らせください。



サイエンスカフェの風景

(常任理事：春海 孝)

○【重要なお知らせ】規約類改正案に対する意思表示票提出のお願い

今年度の関西支部総会において、2017年度以降の支部総会を廃止することが賛成多数で承認されました。廃止にあたっては、関西支部規約（以下、「当規約」）の改正が必要となりますが、総会廃止後の支部活動を円滑に進めるために、関西支部常任理事会では、総会に関する条文の他、支部役員の補充、総会廃止に伴う理事会の権限と招集に関する条文の改正もあわせて皆様に提案することといたしました。

規約改正等は日本気象学会定款（以下、「本部定款」）に準じると当規約で定められていますので、この本部定款に従い、個人会員数の「3分の2」以上の賛成をもって、当規約の改正を議決いたします。

つきましては、皆さまに郵便で送付させていただいた当規約の改正案及び関西支部役員選挙細則改正案をご確認・ご検討の上、同封の意思表示票（ハガキ）で、改正案に対する賛否等の意思表示を必ず行って頂きますようお願いいたします。意思表示票（ハガキ）は、必要事項を記入の上、**2017年3月27日（月）必着**で事務局（大阪管区気象台防災調査課）宛てに必ずご提出ください。

なお、支部規約改正が議決された場合、その後に開催される本部理事会での承認を経て改正案は確定します。そのため、本部理事会での承認日が改正日となります。また、提出頂いた意思表示票の集計結果は、速やかに支部会員宛メール及び支部ホームページで周知する予定です。

お手数をおかけしますが、支部会員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。